

# 富士中だより

八丈町立富士中学校 平成29年11月21日 第7号

ホームページ <http://www.hachijomachi-tyky.ed.jp/fujichu/>

◇ 学校教育目標 ◇  
自ら進んで学ぶ生徒  
人や自然を愛する生徒  
健康でねばり強い生徒  
《校訓：自主・敬愛・根気》

## 日本語のおもしろさ

校長 綿貫 正人

11月も後半になり、立冬も過ぎて暦の上では冬になったということですが、八丈島では晴れた日の日向では、まだまだ汗ばむこともあります。今年もあと一月あまりとなり、「光陰矢のごとし」と感じるのは私の年のせいでしょうか。平成29年もまとめの時期になってきたということですが、これからは寒さがつり、空気も乾燥してきて風邪が流行る時期でもありますから、体調管理にも充分気をつけたいものです。先日行われた合唱コンクールには、ご来賓、保護者、地域の方を含めて200名以上の方々にご来場いただきました。そこでは生徒たちの歌声や演奏に胸が熱くなったり、深い感動を覚えたりした方も多かったのではないのでしょうか。お忙しい中でのご来場に、この紙面を借りましてお礼を申し上げます。

さて、私は朝礼や行事での挨拶で、ことわざや故事成語、あるいは有名人の語録などを引用して、生徒たちに考えてほしいことや実行してほしいことなどの話をすることがあります。運動会や記録会の前には、「切磋琢磨」を使って互いに競い合い、励まし合うことの大切さを話しました。生徒会役員選挙の際には、「滅私奉公」を使って他人のために働くことの尊さについて話しました。また、先日の合唱コンクールでは、実行委員が考えたスローガン「It's show time」のshowに唱・笑・勝・賞の字を当てて、いろいろな意味を表しているということについても触れました。

日本や中国で使われている「漢字」は、その字一つ一つに意味がある「表意文字」なので、一つの文字でもそれらを組み合わせても意味が通じますし、「同音異義語」といわれるように、音が同じでも全く違った意味になることもあります。（一方、かな文字はそれ一つでは意味のない「表音文字」ですね。）したがって、日本語というのは「表意文字」と「表音文字」が組み合わさった、非常に珍しい言語なのではないかということが、ある本に書かれていました。また最近テレビでは名前（名字）について、その字の表す意外な由来を解き明かしていく番組もやっていて、例えば、「山田さん」は山や田んぼの近くに住んでいたからつけたとか、「宮下さん」はお宮（神社）の下に住んでいたからだというような内容でした。その他もっと複雑なものもありましたが、いずれにしても名前の字にはいろいろな由来があるものだということがわかりました。

最近、生徒も教員でさえも「マジで！」とか「やばい！」などという言葉を実用的に使っている場面が見られますが、言葉は時代とともに変化していくものなので、その善し悪しをここでどうこう言うつもりはありません。けれども私達は、こうした漢字やかな文字という日本独特の文化の中で生活しているわけですから、漢字一つの意味や単語の由来等をじっくりと調べてみたり、考えてみたりすることも時には必要です。それによって、新たな発見があったり知識が増えたりして、正しい日本語への理解も進むのではないのでしょうか。勉学の秋に、家庭でもこんなことを話題にしていけるとおもしろいかもしれません。

## 自然科学部 入賞について

自然科学部では、第61回日本学生科学賞都大会に6つの研究作品を応募しました。部員全員で取り組んだ「ヤブニッケイもち病菌の研究Ⅱ」は、優秀賞、1年生中心に取り組んだ「落ち葉の吹き溜まりの研究 体育館入口にできる三角形の不思議」も優秀賞でした。残念ながら昨年を引き続きの都の代表にはあと一歩でしたが、この2作品だけが都での優秀賞で高く評価されたと思います。2年生の個人研究で取り組んだ「美しくするための炎色反応の研究Ⅱ」は、昨年度より一つ上の努力賞に輝き、1年生の個人研究の「双翅目の平均棍棒の研究」、1年生の4人で取り組んだ「甲虫の後翅の研究」は奨励賞に入賞しました。10月29日に日本学生科学賞都大会の表彰式が日本プレスセンターホールで行われ、代表者3名で参加してきました。大勢の人々の前で表彰される時には、3人ともたいへん緊張していましたが、堂々と誇らしげに賞状と盾を受け取っていました。研究作品への講評や他校の研究レポートを見ることができ、今後の研究活動に活かせることができました。受賞しているほとんどの学校が、大学付属や高校付属、私立中ばかりの中で、八丈町立富士中学校が、今年も公立学校として輝いていました。



部長の浅沼健君が掲げた今年の目標は、日本学生科学賞で昨年度より多くの入賞を取ることでしたが、見事に目標を達成することができました。来年度は、更に上を目指したいと1・2年生は張り切っています。  
(自然科学部顧問 川畑)

## ちょんこめ作業所訪問・交流会

3年生の2学期の総合的な学習では、「ちょんこめ作業所訪問・交流会」を毎年行っています。道徳の授業で、昨年末に相模原で起きた悲しい事件について考えたうえで、ちょんこめ作業所の歴史や活動の様子をDVDで見て、10月19日に訪問・交流を行いました。作業所の利用者の皆さんの明るい笑顔がとても眩しくて、ちょっぴり緊張していた中学生も次第に打ち解けることができました。アルミ缶のプレス作業やステンシルの作業など楽しみながら生き生きと仕事に打ち込む皆さんの姿に感動しました。次の週には、西尾所長さんと中村さんが生徒の質問に答える形での講話をしてくださいました。最後に西尾さんが「知らないことで人は壁を作ってしまう。お互いに知ることが大切ですね。」とおっしゃったことが、印象的でした。作業所の皆さん、ありがとうございました。これからも、よろしくお願いします。

(3学年：清水)

### 生徒の感想

- ・実際に訪問してみて、利用者の方がすごく楽しそうにしているのが印象的でした。
- ・アルミ缶の作業は、とても大変な仕事で、夏などはもっと大変なんだと思いました。自分たちは、しっかりと缶を分別するようにしたいと思います。
- ・私はちょんこめ作業所の皆さんの話を聞くまでは、壁を作っていたけど、ちょんこめの人たちに来て、話を聞いて、少しだけ考え方や行動が違っただけで、私たちとやりたいことは一緒なんだということがわかって、いっぱい話し合いたかったです。

## サッカー部秋季大会 報告

先日行われたサッカー部秋季大会において、大賀郷・三原中学校を相手に3対2で勝つことができました。見に来てくれた方々、応援ありがとうございました。今回の秋季大会は二年生二名が出られなくなってしまい、三年生が出てくれました。試合後の月曜日の部活では、一人一人が個人の反省点とチームの反省点をそれぞれ話し合い、次の目標ができました。二月の新人戦と来年の遠征決定戦に向けて、努力を怠らず頑張りますので今後も応援とご協力をお願いいたします。

サッカー部キャプテン 浅沼 重暉

# 中学生議会

11月16日に、中学生議会がありました。3年生は社会科の授業で、国政と地方自治についての学習を生かし、中学生の目線で「八丈町の町政の課題」について考えました。各班で考えた町への要望を、議員役の代表生徒が実際に町の担当者に質問を行いました。

普段見られない議会の様子を見ることができ、公民の勉強に今までよりも興味をもつことができました。これからは八丈町の住民として町づくりに積極的に参加し、よりよい八丈町をつくっていきけるようにしたいです。

質問に対し、町の回答者がわかりやすく答えてくれたので良かったです。今回議員になって、様々なことを学びました。きっと八丈町の人は、いろいろ考えて町を支えているんだなと思いました。

選挙権が18歳に引き下げられ、3年生はあと3年後には有権者になります。町政に関心をもち、八丈町がさらによりよくなるように、中学生も“住民”として積極的に町づくりに参加してほしいと思います。八丈町の未来をつくるのはみなさんです。 (社会科：小川)

## It's show time!! ~絆を深め最高の思い出を~ (唱・笑・勝・賞)

11月11日に行われた合唱コンクールでは、富士中生98人の精一杯の歌声が今年も響き渡りました。緊張する中でどのクラスも練習以上の歌声を披露することができ、生徒たちのもっているパワーのすごさを改めて感じました。クラス練習が始まった頃はうまく練習が進まなかったり、クラスみんなの気持ちがまとまらなかったりということもありましたが、生徒たち主体で練習を進め、前向きな言葉がけや仲間を思いながら解決方法を模索し、クラス合唱を創り上げることができました。合唱コンクールを通し、クラスや富士中の絆が深まったと多くの生徒が実感できたようです。今回のように、目標に向かい地道に努力を積み上げた時間は、いつか1人1人にとってかけがえのないものになると思います。ご協力・ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

(音楽科：柴山)



唱・笑・勝・賞

# It's show time ~絆を深め最高の思い出を~

## 実行委員長 堀 真緒

去年、合唱コンクール副実行委員長としての経験をいかして、今年は合唱コンクール実行委員長になりました。合唱コンクール実行委員会で司会を行ったり、開会の言葉を担当したことで今までにない責任を感じました。実行委員長という経験ができて良かったです。

## 実行委員 山岸 南美

私は、今年初めて合唱コンクール実行委員になりました。司会という仕事を通して色々なことを学ぶことができました。大勢の前で話すことによって以前より人前で話すことに慣れることができ、実行委員になって良かったなと思いました。今回学んだことを今後の私生活にいかしていきたいです。

## 実行委員 大崎 竣介

僕は、合唱コンクールを成功させることができましたと思います。僕は本番前日の実行委員会の時に体調不良で休んでしまいましたが、当日は大きな失敗もなく実行委員の仕事を行うことができました。

歌に関しては、全力で歌いこなすことができました。最初1年、2年の歌声を聞いて、練習のときより声が大きくなり、女子のパート、男子のパートが分かりやすくなっていたので、プレッシャーを感じました。その中でも落ち着いて、今まで通り歌うことができ、最優秀賞が取れたので良かったです。いい思い出になりました。

## 副実行委員長 高橋 黄凱

今年の合唱コンクールでは、スローガンにもあるように、クラスでの絆を深めることができましたと思います。お互いに話し合い、ここが良いだとか、ここはもうちょっとこうしようなどの意見がクラスで出てきていて、良かったと思いました。特に曲責の人たちが率先して動いてくれ、上手にまとめ上げてくれました。

## 実行委員 小宮山 乃咲

今年も合唱コンクール実行委員になりとても良い合唱コンクールができたと思いました。私が一番大変だったことは、めくりプログラムの作成です。自分達が書いためくりプログラムを糸を使って一つにまとめるのは、とても難しく大変でした。でも上手に作れて良かったです。合唱は、どの学年もリハーサルよりも良くなっていて観客の皆さんに感動を届けられたと思います。

## 実行委員 濱野 日茉莉

合唱コンクールお疲れ様でした。今年の合唱コンクールはどの学年も一生懸命で、それぞれ心に残る素晴らしい合唱でした。

私は人前に出て話すのが苦手ですが、今年は司会にチャレンジしました。不安でいっぱいだったけど何度も練習して本番では、ゆっくり話すことができたのが良かったです。

## 副実行委員長 福地 葵

私は今回、初めての合唱コンクールで実行委員会をして思ったことは、合唱コンクールを中心となって動かしていくので大変でした。実行委員会を度々行い、地域にポスターを渡しに行くこともありました。私は副実行委員長で開会式に諸注意を覚えて言うのを頑張りました。

## 実行委員 沖山 匠

僕は合唱コンクールの実行委員をがんばりました。最初は分からないこともあって不安だったけど無事に仕事ができよかったです。本番は最初の司会がすごく緊張したけど、その後は全然平気になり、無事に自分の仕事が終わってホッとしました。これからも皆の前に出る機会を増やしていきたいと思いました。

## 実行委員 浅沼 凜

私は初めての合唱コンクールで実行委員になり、とても張り切っていました。実行委員の仕事は大変でしたがやりがいがあって楽しかったです。本番、めくりプログラムの仕事をするだけでもとても緊張していました。スムーズにいくよう、事前にたくさん練習してよかったです。とても思い出に残る合唱コンクールでした。

## 11、12月の主な予定

11月 27(月) 28(火) 29日(水)

期末テスト

12月 1日(金) 国際理解教室

12月 3日(日) P連卓球大会

12月 6日(水) 三者面談(始)

12月 15日(金) 三者面談(終)

12月 21日(木) 大掃除

12月 25日(月) 終業式